■ 平成13年度事業概要 ■

Ⅰ　文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第４条第１号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●寄贈資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料）　5,435点
●購入図書・雑誌　2,069点
●その他の購入特別資料　218点
●レプリカ作成・ＶＴＲ、テープ、ＣＤ　８点

（別掲の統計・資料編「資料収集状況」欄参照）

整理・保存　　カード作成及び収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等
閲　　覧　　利用者　延べ4,127人

Ⅱ　文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第４条第２号に掲げる事業は、次のとおり行った。

１　展覧会事業

(1)　常　設　展「北海道文学の流れ」

会　期　　通年
会　場　　北海道立文学館常設展示室
入場者　　8,942人

展示の構成・内容は開館当時のものを踏襲しているが、常設展示室内に開設された特設コーナーでは「色紙に見る作家の魅力」をテーマに、当館が収蔵している諸作家の色紙を展示した。

以下に、展示編成の基本を掲げておく。なお、〔　〕内は監修者名を示す。

〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・Ｓ・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治９年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在住期の足跡を概観した。

〈北海道文学の流れ―明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

＊「空知川の岸辺」国木田独歩
国木田独歩、佐々城信子
＊開拓期を彩る作家群
岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳冨蘆花ほか
＊漂泊の人・石川啄木
石川啄木、石川節子、橘智恵子、野口雨情ほか

＊有島武郎をめぐる人々
有島武郎、有島生馬、里見弴、武者小路実篤、志賀直哉
＊道産子作家誕生
武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎
＊同人雑誌群
「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか
＊来道作家の足跡（大正期）
文学地図（足跡図）―吉屋信子、宮本百合子、橘外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ―昭和前期〉〔西村信〕
＊プロレタリア文学の潮流
葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか
＊若い詩人の肖像
伊藤整、川崎昇ほか
＊来道作家の足跡（昭和前期）
芥川龍之介、里見弴、鶴田知也ほか
＊農民文学の世界
吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか
＊戦時下の文学
林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ―昭和後期〉〔神谷忠孝〕
＊戦後文学の展開
風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか
＊さまざまな座標Ⅰ
船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか
＊旋風をおこした作家たち
原田康子、三浦綾子、渡辺淳一
＊さまざまな座標Ⅱ
荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか
＊来道作家の足跡（昭和後期）
福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか
＊活躍する作家たち
三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔永井浩〕
＊草創期
児玉花外、高村光太郎、三木露風、宮沢賢治、北原白秋
＊生成期
更科源蔵、吉田一穂、左川ちか、猪狩満直、鈴木政輝、加藤愛夫、和田徹三ほか

＊戦争と詩

百田宗治、今井鴻象、鷲巣繁男、三谷木の実、牧章造ほか

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

＊北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

＊来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

＊口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

＊アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

＊北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島滕六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

＊俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐錬太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

＊花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか

＊俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

＊明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋Ｏ丸、田中五呂八ほか

＊昭和後期～平成７年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

＊北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

＊明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

＊昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

＊昭和40年代以降
加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕
夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 企画展・特別企画展

●特別企画展「夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～」

会　期　　平成13年6月30日（土）～8月5日（日）（32日間）
会　場　　北海道立文学館特別展示室
入場者　　5,004人

特別企画展「夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～」は2005年に生誕200年を迎えるアンデルセンの業績を称えて、世界各国でもたれる記念事業の一つとして実施された。

展示会では、アンデルセンの故郷デンマークのオーデンセ市アンデルセン博物館、オーデンセ大学アンデルセンセンターの協力と児童文学者松井直氏の監修のもと、これまでに出版されたアンデルセンの童話や絵本を中心に、選りすぐりの絵本原画と、アンデルセンの初版本やその遺品などが展示された。また角野栄子氏（童話作家）、佐藤宗子氏（千葉大学助教授）、押野武志氏（北海道大学助教授）を迎えての記念フォーラム「現代に生きるアンデルセンの心」、サンクンガーデンコンサート「モリン・ホールが奏でるメルヘンの響き」も実施され、展覧会とあわせて、好評のうちに終了した。

●特別企画展「100年目の小熊秀雄」

会　期　　平成13年8月25日（土）～10月8日（日）（39日間）
会　場　　北海道立文学館特別展示室
入場者　　1,137人

詩人・小熊秀雄の生誕100年を記念したこの特別企画展は、「原風景……海」「メディア・小熊秀雄」「アーティスト・小熊秀雄」「自由への飛翔」「死の前後」「魂のリレー」の6コーナーを通じて、アヴァンギャルド精神あふれるマルチな表現者としての小熊の姿をアピールした。詩人という肩書きに収まらない文学実践、また現代に生きる我々にも共感を与える先見性など、新しく紹介された小熊秀雄の魅力は、それが生誕100年を過ぎた今日においても十分価値ある仕事であったことを物語っていた。また、今回の展覧会に併せて作成した図録も、従来以上に好評であった。

（企画展）

●企画展「映画ポスターに見る北海道の文学」

会　期　　平成13年４月28日（土）～６月10日（日）（39日間）

会　場　　北海道立文学館特別展示室

入場者　　1,653人

映画の歴史を振り返るとき、原田康子原作の「挽歌」に見られるように、北海道を舞台にした映画や道内ロケ作品が数多く撮影されており、名作として人々の記憶に残っているものも少なくない。本展では、北海道ゆかりの映画ポスターを中心にちらし、シナリオ、写真など約200点を展示し、北海道の文学と歴史に目を向けながら、文学と映画の魅力を紹介した。また、会期中には「火地の冬のなかまたち」「旅路」「ユーパロ谷のドンベーズ」など北海道を舞台に制作された映画の上映会も実施され、好評を得た。

※企画展「占領下の子ども文化〈1945～1949〉展」

～メリーランド大学所蔵プランゲ文庫『村上コレクション』に探る～」

会　期　　平成13年10月27日（土）～平成13年11月18日（日）（19日間）

会　場　　北海道立文学館特別展示室

入場者　　1,831人

この企画展では、連合国軍統治下の日本で発行された出版物から、主に子どもたちを対象とした雑誌、図書、マンガ、新聞などを中心に解説を加えて約500点を展示した。いずれも、当時の連合国軍総司令部が検閲のために収集し、その後アメリカ・メリーランド大学に保管されていたものである。会期中には、札幌で開催された日本児童文学学会の団体観覧もあり、また道内のマスメディアがたびたび取り上げたこともあって、市民の高い反響を得た。時節柄、戦争と平和を考える機会にもなったとの感想も得られた。

※企画展「賢治を彫る～畑中純の版画世界～」

会　期　　平成13年12月１日（土）～12月16日（日）（14日間）

会　場　　北海道立文学館特別展示室

入場者　　327人

畑中純氏は、漫画家として第10回漫画家協会優秀賞を受賞するなどの活躍の一方、版画家としても長いキャリアを持つ。今回開催された企画展では3,000点に及ぶ氏の版画作品から、宮沢賢治の作品にテーマを採ったものを中心に、伊藤整関連の作品も加え、大小60点を超える版画を展示した。もととなった作品の文学性をさらにイメージ豊かにふくらませる畑中版画の世界を、来場した方々は存分に味わい、楽しんでいた。

※企画展「Visual Poetry 2002 in 札幌＋（プラス）」

会　期　　平成13年３月16日（土）～４月７日（日）（23日間）

会　場　　北海道立文学館特別展示室

入場者　　381人

同展実行委員会（委員長・高橋昭八郎氏）と（財）北海道文学館の共催として実施された企画展「Visual Poetry 2001 in 札幌＋」（ヴィジュアル・ポエトリィ～視る詩、あるいは視覚詩）では、清水俊彦、藤富保男、高橋昭八郎など国内外から５ヵ国８人の詩人が作品を出品した。またヴィジュアル・ポエトリィ以外の造形の分野からも造形、陶芸など多くの出品があり、その多彩な構成は多くの観覧者の関心を集めた。

(3) ファミリー文学館

●夏休みファミリー文学館「ぼくも・わたしも絵本作家」(ワークショップ)

会　期　　平成13年8月7日(火)～8月10日(金)(4日間)
会　場　　北海道立文学館講堂
講　師　　手作り絵本サークル「わらべの会」
参加者　　304人

好評につき3年目の開催となった手作り絵本のワークショップ「ぼくも・わたしも絵本作家」は、本年も参加する子どもたちが自ら主役となって世界に一つしかない自分だけの手作り絵本をつくることを目的として実施した。

手作り絵本サークル「わらべの会」の皆さんに指導のもと、小学校3、4年生の部、5、6年生の部とに分かれ、オリエンテーションを含めそれぞれ4日間の日程でオリジナル絵本の完成をめざした。また、完成した作品は冬休みファミリー文学館「真冬のドキドキ展示室」にあわせて展示された。

●冬休みファミリー文学館「真冬のドキドキ展示室」

会　期　　平成14年1月12日(土)～1月27日(日)(14日間)
会　場　　北海道立文学館特別展示室
入場者　　1,087人

今年度の冬休みファミリー文学館は「真冬のドキドキ展示室」と題して手作り絵本展(夏休みファミリー文学館の完成品と市内で手作り絵本に取り組んでいる作家の皆さんの作品)、手作り紙芝居展、『ゆきおとこのバカンス』絵本原画展の3コーナーを有機的に結んだ展覧会として実施した。また、展示室内に特設のステージを作り、展示期間にあわせて数々のイベントを持ったことは、新しい展示室の使い方として示唆に富むものであった。

(4) わくわく・子どもランド

※～わくわく～こどもランド

会　期　　平成12年5月～平成13年3月
会　場　　北海道立文学館講堂
参加者　　765人
出　演　　人形劇団「豆の木」、「おはなしなあに」ほか

わくわく・子どもランドは、平成13年5月から平成14年3月まで、毎月第2土曜日を中心に催しを行った。内容も、絵本読み聞かせ、パネルシアター、ボードビル、人形劇、腹話術などバラエティーに富んだものを、地域のボランティアサークル等の協力で実施でき、毎回多くの子どもたちや付き添いのご両親に楽しんでいただくことができた。

2　講演会・講座等事業

(1)　文芸講演会

●演　題　　「北海道とフェリーニ」
講　師　　四方田犬彦（明治学院大学教授）
日　時　　平成13年５月20日（日）　午後２時
会　場　　北海道立文学館講堂
聴講者　　81人

●演　題　　「『大正』再考～菊地寛という回路～」
講　師　　日高昭二（神奈川大学教授）
日　時　　平成13年９月15日（土）　午後２時
会　場　　北海道立文学館講堂
聴講者　　53人

(2)　文芸セミナー

●演　題　　「人魚をめぐって～日本の人魚と西洋の人魚～」
講　師　　高橋宣勝（北海道大学教授）
日　時　　平成13年７月７日（土）　午後２時
会　場　　北海道立文学館講堂
聴講者　　58人

●演　題　　「占領検閲下の子ども出版物」
講　師　　谷　暎子（北星学園大学教授）
日　時　　平成12年11月３日（土）　午後２時
会　場　　北海道立文学館講堂
聴講者　　63人

●演　題　　「北辺に生きる」
講　師　　菅原政雄（作家）
日　時　　平成14年１月19日（土）　午後２時
会　場　　北海道立文学館講堂
聴講者　　46人

●演　題　　「〈視る詩〉への招待」
講　師　　平原一良（北海道文学館事業課長）
日　時　　平成14年３月17日（日）　午後２時
会　場　　北海道立文学館講堂
聴講者　　20人

(3) 文芸講座等

※「映画ポスターに見る北海道の文学」関連映画上映会

上映作品　「大地の冬のなかまたち」「白い馬」「木を植えた男」「旅路」
日　時　平成13年5月3日（木）、4日（金）、6日（日）、13日（日）　午後1時30分
会　場　北海道立文学館講堂
入場者　100人

※文学館児童文化フォーラム「現代に生きるアンデルセンの心」

講　演　「アンデルセンの目」　講師　角野栄子（童話作家）
パネルディスカッション　「現代に生きるアンデルセンの心」
パネリスト　角野栄子（童話作家）、佐藤宗子（千葉大学助教授）、押野武志（北海道大学助教授）
司　会　柴村紀代（藤女子大学講師）
日　時　平成13年7月8日（日）　午後1時
会　場　ホテルライフォート札幌
聴講者　135人

※「サンクンガーデン・コンサート」

出　演　嵯峨治彦（馬頭琴奏者）、田中孝子（童話朗読）
日　時　平成13年7月20日（金）　午後4時
会　場　北海道立文学館サンクン・ガーデン
来場者　162人

※「特別展　100年目の小熊秀雄　講演テープを聞く会」

日　時　平成13年9月6日（金）　午後2時
会　場　北海道立文学館講堂
聴講者　25人

※緊急企画「《小熊秀雄》を語るつどい」

パネリスト　八子政信（書誌研究家）、原子修（詩人・札幌大学教授）、斉藤征義（詩人）、
工藤正廣（詩人・北海道大学教授）、神谷忠孝（北海道文教大学教授）、
米山将治（詩人）、青柳文吉（当館事業課主査）
司　会　平原一良（当館事業課長）
日　時　平成13年10月6日（金）　午後4時
会　場　北海道立文学館講堂
聴講者　26人

※「畑中純・トーク＆賢治朗読」

講　師　　畑中純（漫画家・版画家）
日　時　　平成13年12月15日（金）　午後２時
会　場　　北海道立文学館特別展示室
聴講者　　28人

※「白鳥洋一・自作を語る」

講　師　　白鳥洋一（画家・絵本作家）
日　時　　平成14年１月14日（月）　午後２時
会　場　　北海道立文学館講堂
聴講者　　12人

(4)　映像鑑賞のつどい（会場は北海道立文学館講堂）

●作品名　　「姉妹」（家城巳代治監督　1955年）
日　時　　平成13年４月22日（日）　午後２時
入場者　　84人

●作品名　　「樺太1945年夏　氷雪の門」（村山三男監督　1974年）
日　時　　平成13年６月３日（日）　午後２時
入場者　　81人

●作品名　　「地の涯に生きるもの」（久松静児監督　1960年）
日　時　　平成13年10月７日（日）　午後２時
入場者　　96人

●作品名　　「新選組」（佐々木康監督　1958年）
日　時　　平成13年12月２日（土）　午後２時
入場者　　80人

●作品名　　「書を捨てよ町へ出よう」（寺山修司監督　1971年）
日　時　　平成14年２月12日（日）
入場者　　87人

(5)　ロビー・コンサート

※「詩とジャズとの出会い」

日　時　　平成13年６月23日（土）　午後６時30分
出　演　　熊谷ユリヤ（詩人・札幌大学教授）、野坂政司（詩人・北海道大学教授）、
　　斉藤征義（詩人）、Baker Street
入場者　　71人

※「ホワイトコンサート in 札幌2001」

日　時　　平成13年12月1日（土）　午後6時30分

出　演　　星井清、榎本裕之、北林隆（以上、ギタリスト）

入場者　　95人

※「お話とチェンバロ」

日　時　　平成13年12月22日（土）　午後6時

会　場　　北海道立文学館地階ロビー

出　演　　木村雅信（作曲家）

入場者　　50人

(6)　ウィークエンド・カレッジ

※文学、芸術及び隣接諸分野に体系的にふれながらも、さらに高度な専門性を持つ内容を継続的に学習する場として開講している。

日　時　平成13年5月26日（土）～平成14年3月24日（日）

原則として各月第2、第4土曜、日曜に開講する。

【内　容】

（前　期）

教　科	科　　目	講　　師
文学	時代小説の世界 北海道の小説を読む 〃	木村順治（北海道工業大学講師） 神谷忠孝（北海道文教大学教授） 押野武志（北海道大学助教授）
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎（ロシア文学者） 工藤とも子（札幌大谷短期大学講師）
文化論	現代アート散策	柴橋伴夫（美術評論家）
特別講座	20世紀の映像表現論 視聴覚メディア表現論 マイノリティの言語と文化	中澤千磨夫（北海道武蔵女子短期大学教授） 野坂政司（北海道大学教授） 津曲敏郎（北海道大学教授）
ワークショップ	札幌俳句吟行	辻脇系一（俳句作家）

（後　期）

教　科	科　　目	講　　師
文学	北海道の小説を読む 実践としての現代詩 絵本論を学ぶ	神谷忠孝（北海道文教大学教授） 押野武志（北海道大学助教授） 笠井嗣夫（詩人・評論家） 柴村紀代（藤女子大学講師）
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎（ロシア文学者） 工藤とも子（札幌大谷短期大学講師）
文化論	現代アート散策 アイヌ文化像をとらえ直す	柴橋伴夫（美術評論家） 奥田統己（札幌学院大学助教授）
特別講座	マイノリティの言語と文化Ⅰ マイノリティの言語と文化Ⅱ 映画に見る20世紀北海道 インターネットと文学	工藤正廣（北海道大学教授） 青柳文吉（北海道文学館事業課主査） 中澤千磨夫（北海道武蔵女子短期大学教授） 野坂政司（北海道大学教授）
ワークショップ	短歌実践のつどい 川柳創作のつどい	村井宏（歌人） 斉藤大雄（川柳作家）

（受講者数：893人）

Ⅲ　北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第４条第３号に掲げる事業は、次のとおり行った。（いずれも国内）

●企画展「映画ポスターにみる北海道の文学」関連資料調査

●特別企画展「100年目の小熊秀雄」関連資料調査

●寺山修司関連資料調査

●中沢茂旧蔵資料調査

●特別企画展・企画展の図録・リーフレット作成に要する調査

Ⅳ　文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第４条第４号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主催名義の使用を承認して支援した。

●日本児童文学者協会北海道支部

「児童文学学校」

（原則として４～３月の第１、第３木曜日に開校　北海道立文学館講堂）

●星座の会

文学講演会（２回）

（平成13年５月12日、10月20日　北海道立文学館講堂）

●北海道近代文学懇話会

文芸講演会（２回）

（平成13年７月１日、平成14年２月２日　北海道立文学館講堂）

●日本聞き書き学会

「聞き書き講座」（２回）

（平成13年７月８日、10月21日　北海道立文学館講堂）

●「北の詩精神」実行委員会

「誌の朗読とギター演奏」

（平成13年７月17日　北海道立文学館講堂）

●川柳「時の風」

「川柳セミナー」

（平成13年８月28日　北海道立文学館講堂）

●斎藤茂吉記念中川町短歌フェスティバル実行委員会

「斎藤茂吉記念第８回中川町短歌フェスティバル2001」

（平成13年９月14日、15日　中川町山村開発センター）

●ＮＨＫ文化センター松井教室

「北海道ゆかりの文学を読む」

（平成13年10月14日　北海道立文学館講堂）

●山の手図書館おはなしかご

「大人が楽しむおはなし会」

（平成13年10月31日　北海道立文学館講堂）

●日本詩人クラブ
「講演と自作詩朗読の午後」
（平成13年11月４日　北海道立文学館講堂）
●絵本・児童文学研究センター
「第６回文化セミナー　『児童文化の中の声と語り』」
（平成13年11月12日　小樽市民会館）
●「ゆるりら森の仲間たち」実行委員会
「ゆるりら森の仲間たち～たかたのりこ原画展～」
（平成14年２月16日～３月３日　14日間　北海道文学館特別展示室）
●北海道読書アドバイザークラブ
「第14回読書サロン」
（平成14年３月28日　北海道文学館講堂）

Ⅴ　啓発広報事業

寄附行為第４条第５号に掲げる事業は、次のとおり行った。
●施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作、発行。
●広報誌「サンクンガーデン」第12号（平成13年10月）、第13号（平成14年３月）の編集発行。
※「北海道文学館報」第54号（平成13年７月）、第55号（平成13年12月）の発行。

Ⅵ　刊行物の刊行事業

寄附行為第４条第６号に掲げる事業は、次のとおり行った。
●特別企画展「夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～」図録の刊行
●特別企画展「100年目の小熊秀雄」図録の刊行
●企画展「Visual Poetry 2002 in 札幌 ＋」図録の刊行
●「2001年度　資料情報と研究」の刊行

Ⅶ　北海道立文学館の管理運営事業

寄附行為第４条第７号による道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に取り交わされた委託契約（４月１日締結）に基づき、適切に行った。

Ⅷ　その他の付帯事業

●博物館学芸員実習生の受け入れ及び実習指導
平成13年９月11日（火）～９月21日（金）にかけて（計10日間）、北海道武蔵女子短期大学学生（３人）、帯広大谷短期大学学生（１人）に対し行った。

※古書バザール
平成13年９月15日（土）、16日（日）、文学館１階ロビーで実施。
・ミニ古書市は地階にて通年実施。ともにチャリティーバザール実行委員会が運営。

（※印の事業は財団法人北海道文学館の独自企画のものを示す）